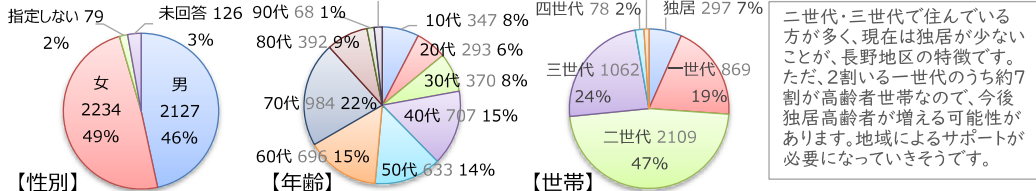


『長野地区中学生以上全住民アンケート2022結果報告(抜粋)』

みなさんに協力いただいたアンケートの集計結果の抜粋です。長野地区まちづくり協議会が、長野地区にお住まいの中学生以上の全住民を対象に、実施致しました。回収率が97%と非常に高いので、長野地区をより住みやすい地域にするにはどうしたらいいのか、今後考えていくための重要なデータになると思います。

1.回答者について

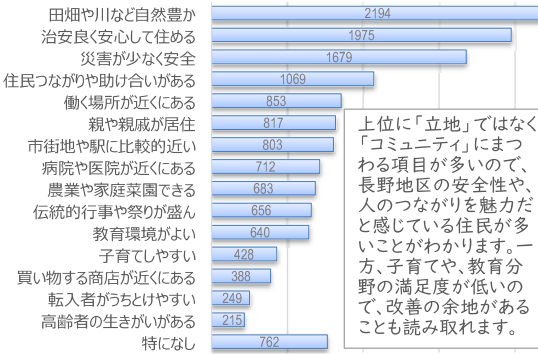


回収率は97.2%と高く、今まで回答する機会が少なかった、女性の回答が半数を占めています。

約5割が60代以上ですが、40代以下も割るので、今まで回答する機会の少なかったこれからの長野を担う若い世代の意見も数多く入っていることがわかります。

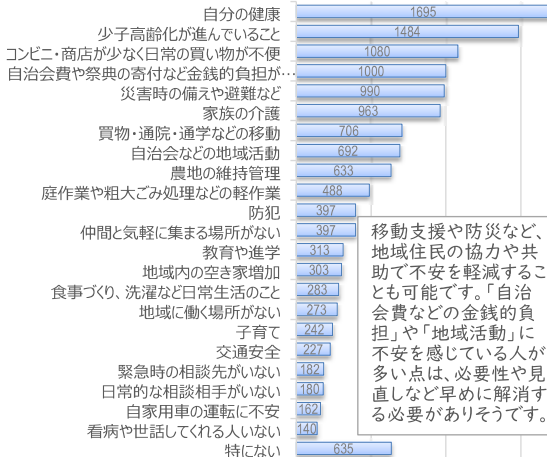
2.長野地区の生活について

問1:長野地区に住んでいて、あなたが良いと思う点、満足している点はどれですか。(〇は3つまで)



上位に「立地」ではなく、「コミュニティ」にまつわる項目が多いので、長野地区の安全性や、人のつながりが魅力だと感じている住民が多いことがわかります。一方、子育てや、教育分野の満足度が低いので、改善の余地があることも読み取れます。

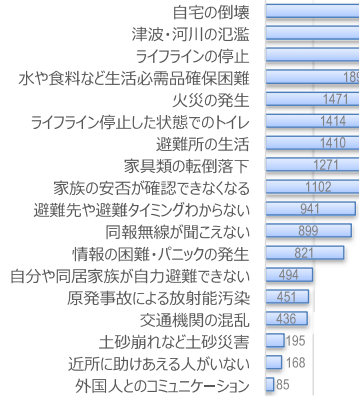
問2:長野地区で生活をするうえで、あなたが不安に感じていること、困っていることは何ですか？(あてはまるものすべてに〇)



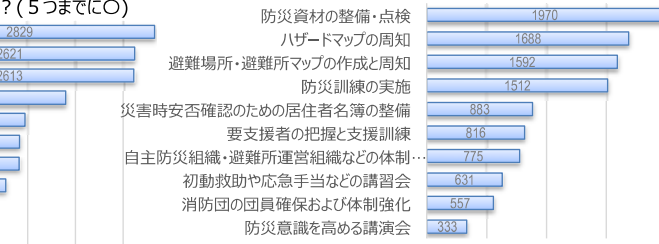
移動支援や防災など、地域住民の協力や共助で不安を軽減することも可能です。「自治会費などの金銭的負担」や「地域活動」に不安を感じている人が多い点は、必要性や見直しなど早めに解消する必要があります。

3.長野地区の防災活動について

問7:大規模災害が発生したら、何が心配ですか？(5つまでに〇)

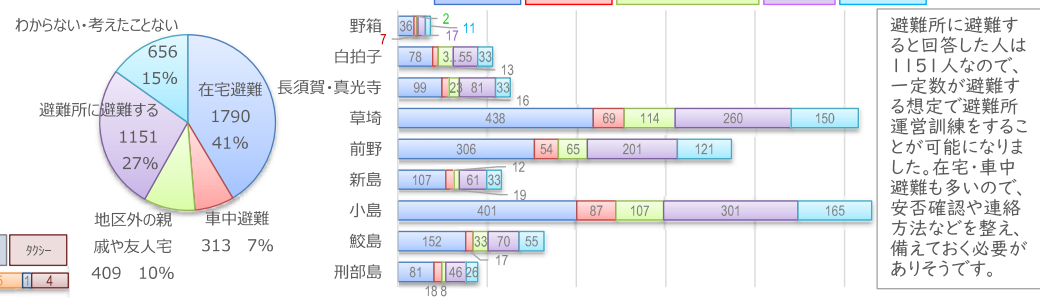


問11:災害から地域の人を守るために、力をいれて取り組んでら良いのは何だと思いますか？(3つまでに〇)



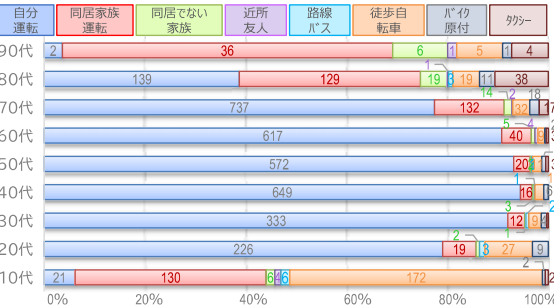
「津波・河川氾濫」「ライフラインの停止」は行政に頼るところが大きいです。 「自宅倒壊」「水食料の確保」などは各家庭で備えることができます。「避難所生活の不安」「避難タイミングがわからない」は、地域で支えあうことで軽減可能です。災害対策はハードでは、すべてをカバーしきれません。人のつながりや、情報共有の促進など、ソフト面から備えることもとても重要です。防災訓練だけでなく「ハザードマップの周知」「安否確認名簿」や「要支援者の把握」など、発災時に必要な基礎情報の整備が必要だという回答が多いのは参考にしたところです。

問10:自宅が被害を受けたら避難所へ避難しますか？



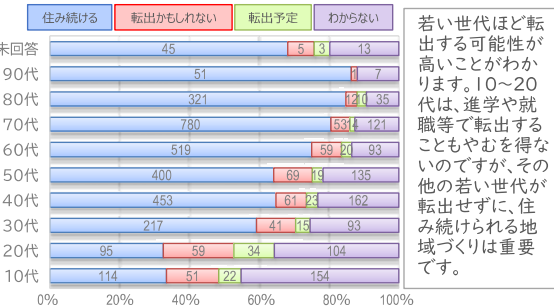
避難所に避難すると回答した人は1151人なので、一定数が避難する想定で避難所運営訓練をすることが可能になりました。在宅・車中避難も多いので、安否確認や連絡方法などを整え、備えておく必要があります。

問12:日常的な移動手段はどうしていますか？(1つに〇)



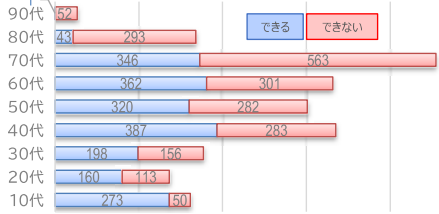
全体では76%の人が「自分で運転」ですが、80代以上は40%以下に減ります。今後、80代が増え、買い物や通院が、自分でできなくなる方が増加し、移動支援が必要になるだろうことがわかります。

問3:あなたは長野地区に今後も住み続ける予定ですか？(1つに〇)

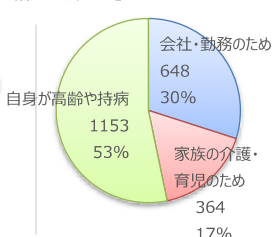


若い世代ほど転出する可能性が高いことがわかります。10~20代は、進学や就職等で転出することもやむを得ないのですが、その他の若い世代が転出せずに、住み続けられる地域づくりは重要です。

問9-1:自身や周囲に被害がなかった場合、地域の活動に協力できそうですか？

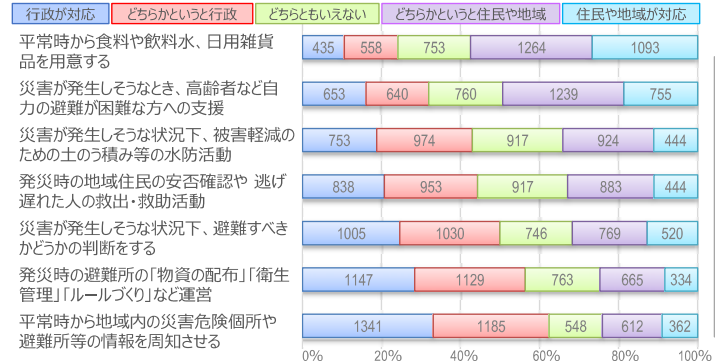


問9-2:「協力が難しい」と回答した人の理由



災害時に協力できると回答した方は50%でした。被災時は、仕事の復旧作業、家族の世話などにより、地域活動に協力しなくてもいい方がいます。一方、10代の8割以上が、協力できると回答。その数は20代や30代よりも多いです。災害時に10代が地域に貢献した事例が全国に存在します。災害に強い地域づくりには、年齢や性別を問わず、協力できる人が活躍できる体制を事前に整えることが必要そうです。

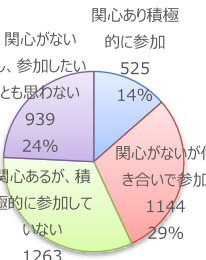
問8:各防災対策は、誰が行うことが現実的かつ効果的だと思いますか？



実は、全ての項目は住民や地域組織が主体的に行うべきとされている内容です。大規模災害発生時には、被害が広域におよび、情報伝達や行政の対応が追いつかなくなる可能性が高いです。行政がやるべきことはありますが、行政に頼るだけではなく、地域や各家庭で事前に準備し、備えることで、安心してらせる地域づくりへとつながります。

5.長野地区の地域活動について

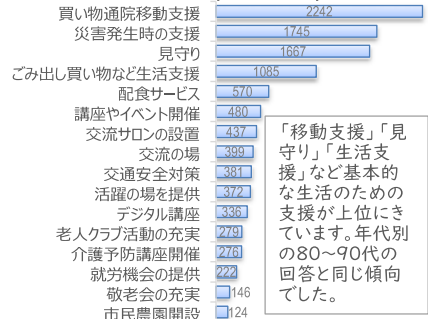
問5:地域活動への関心と参加状況を教えてください。関心がない



参加の半数以上が「関心はないが付き合っていて参加」そして「関心があっても参加していない」方が3割います。活動の目的を明確にし、情報発信することで、解消される部分があるようです。

【高齢者対策】

問16:高齢者が安心して暮らすために、力をいれた方が良いことは何ですか？(3つまでに○)

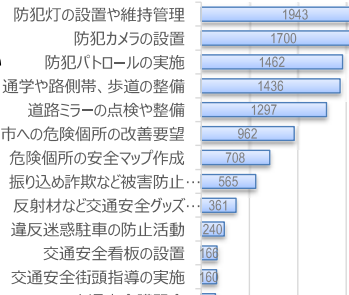


「移動支援」「見守り」「生活支援」など基本的な生活のための支援が上位にきています。年代別の回答と同じ傾向でした。

【防犯対策】

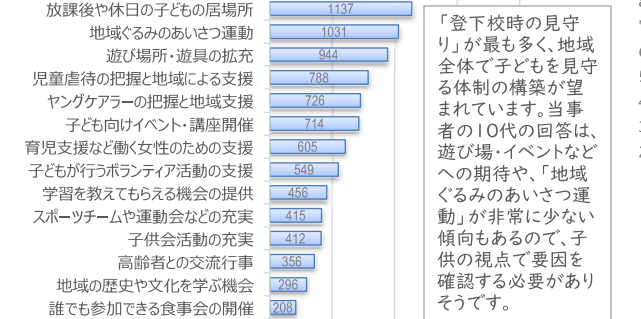
問19:犯罪や交通事故から地域住民を守るために、力をいれた方が良いことは何ですか？(3つまでに○)

上位3つは「防犯」に関することなので、交通安全よりも関心が高い可能性があります。全体的に実効性の高いことが上位にあり、物理的な改善を求める意見が多いことから、有効な場所を地域で検討し、優先順位をつける必要がありそうです。



【子どもの健全育成】

問17:力をいれた方が良いことは何ですか？(3つまでに○)

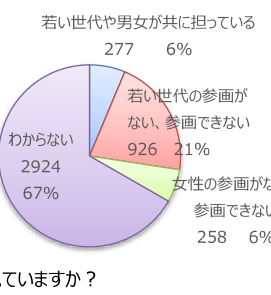


「登下校時の見守り」が最も多く、地域全体で子どもを見守る体制の構築が望まれています。当事者の10代の回答は、遊び場・イベントなどへの期待や、「地域ぐるみのあそび運動」が非常に少ない傾向があるので、子供の視点を要因を確認する必要があります。

【多世代の参画】

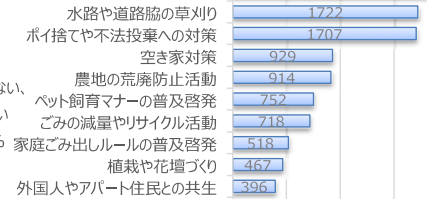
問15:地域活動は若い世代や男女が共に担い体制になっていくか？(あてはまるものに○)

「わからない」が最多ですが、次いで「若い世代の参画がない、できない」が多く、年代別回答では、若い世代の割合が高くなっています。様々な世代の参画が望まれます。

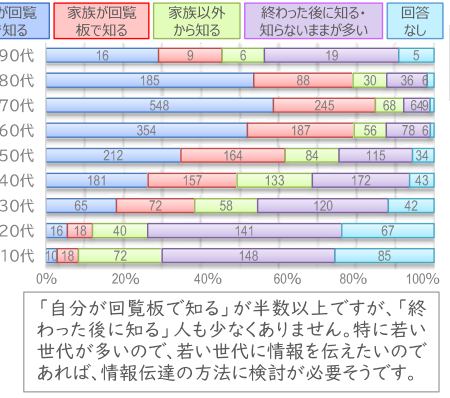


【生活環境の維持】

問18:生活環境を守るために、力をいれた方が良いことは何ですか？(3つまでに○)



【情報伝達について】問13:回覧板を見ていますか？



「自分が回覧板で知る」が半数以上ですが、「終わった後に知る」人も少なくありません。特に若い世代が多いので、若い世代に情報を伝えたいのであれば、情報伝達の方法に検討が必要そうです。

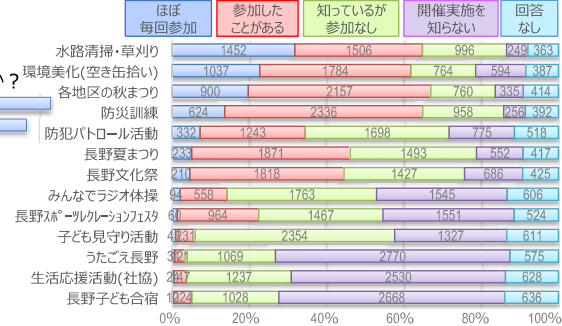
基本的な「清掃」「草刈り」「不法投棄防止」が全体として多いです。今後、高齢化により問題になりそうなのが「空き家対策」「農地の荒廃防止」も900人以上が回答しています。早めの検討が必要そうです。

問14:地域の情報伝達手段は何がいいと思いますか？(該当に○)

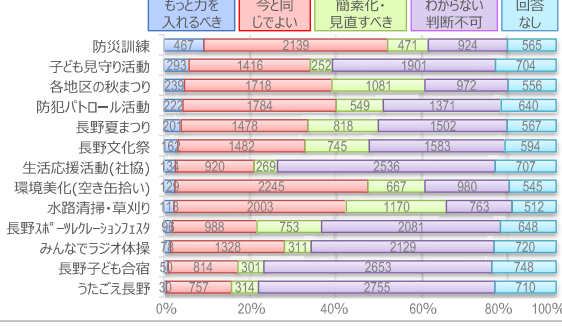


LINEの回答が多く、年代別でも、50代以下の半数を占めました。回覧板を見なくてもLINEを見る可能性のある人がいるので、回覧板とLINEの併用が有効かもしれません。

問6-1:以下の行事や活動に参加したことはありますか？



問6-2:今後どうしたいと思いますか？(あてはまるものに○)



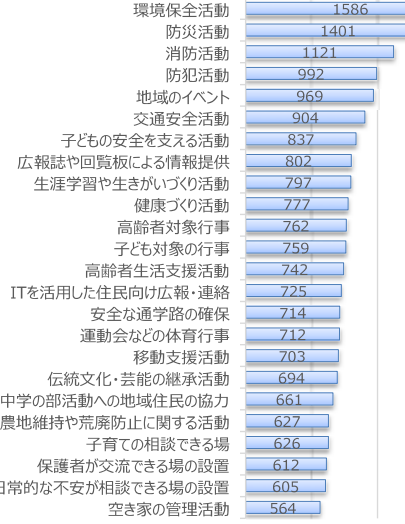
対象者が絞られる活動は「実施を知らない」が多い傾向ですが、「子どもの見守り」や「生活応援」は、多くの人に活動を知ってもらうことが重要なので、周知の必要がありそうです。活動については「今と同じくらい良い」の回答が多いのですが、「もう少し簡素化・見直すべき」「もっと力を入れるべき」を大きく上回る活動・行事がほとんどなので、活動について検討をする必要もありそうです。

問4-1:長野地区で行っている・今後行なうべきと考える24の地域活動の[重要度]-[満足度]の差を求め、過不足の度合いを年代別に行いました。

	10~20代	30~50代	60~70代	80歳以上			
1 安全な通学路や道路の確保	42.4	安全な通学路や道路の確保	66.7	買物・通院など移動支援	64.2	買物・通院など移動支援	68.7
2 買物・通院など移動支援	38.6	買物・通院など移動支援	61.6	安全な通学路や道路の確保	61.5	農地維持や荒廃農地解消	52.0
3 災害に備える防災活動	34.9	高齢者生活支援活動	54.1	高齢者生活支援活動	57.5	高齢者生活支援活動	51.9
4 防火・消火など消防活動	34.2	ITを活用した住民向け広報	53.4	空き家の管理支援活動	50.1	空き家の管理支援活動	48.0
5 子育ての相談ができる場	34.1	災害に備える防災活動	44.6	災害に備える防災活動	48.8	安全な通学路や道路の確保	47.0
6 高齢者生活支援活動	33.5	子どもの安全を支える活動	44.0	子育ての相談ができる場	46.5	美化・環境保全活動	41.8
7 ITを活用した住民向け広報	33.3	子育ての相談ができる場	39.4	農地維持や荒廃農地解消	46.4	日常的な悩み相談の場	41.3
8 農地維持や荒廃農地解消	29.8	防火・消火など消防活動	38.3	子どもの安全を支える活動	44.9	子どもの安全を支える活動	40.4
9 交通安全に関する活動	28.0	空き家の管理支援活動	37.7	防火・消火など消防活動	43.1	災害に備える防災活動	37.8
10 見回りなどの防犯活動	27.0	農地維持や荒廃農地解消	34.7	日常的な悩み相談の場	39.5	子育ての相談ができる場	36.1
11 子どもの安全を支える活動	26.3	見回りなどの防犯活動	34.0	美化・環境保全活動	37.0	交通安全に関する活動	33.7
12 空き家の管理支援活動	25.8	交通安全に関する活動	31.7	子ども対象の行事	31.4	防火・消火など消防活動	33.6
13 美化・環境保全活動	23.4	美化・環境保全活動	28.4	見回りなどの防犯活動	30.6	見回りなどの防犯活動	28.1
14 日常的な悩み相談の場	22.0	子ども対象の行事	22.3	交通安全に関する活動	28.9	子ども対象の行事	27.8
15 子ども対象の行事	19.0	日常的な悩み相談の場	21.5	保護者が交流できる場	27.4	中学の部活動への協力	26.9
16 中学の部活動への協力	18.9	中学の部活動への協力	20.4	地区内の情報共有	24.2	保護者が交流できる場	26.2
17 保護者が交流できる場	15.1	地区内の情報共有	16.2	ITを活用した住民向け広報	23.9	地区内の情報共有	21.6
18 夏まつりなど地域イベント	10.5	保護者が交流できる場	12.7	中学の部活動への協力	23.8	ITを活用した住民向け広報	11.2
19 生涯学習や生きがいづくり	10.2	生涯学習や生きがいづくり	2.5	健康体操など健康づくり	8.4	生涯学習や生きがいづくり	8.9
20 地域の伝統文化の継承	9.6	健康体操など健康づくり	2.0	生涯学習や生きがいづくり	8.1	地域の伝統文化の継承	8.1
21 地区内の情報共有	5.0	地域の伝統文化の継承	-0.6	地域の伝統文化の継承	3.8	健康体操など健康づくり	5.7
22 健康体操など健康づくり	4.3	高齢者対象の行事	-2.9	夏まつりなど地域イベント	-4.8	運動会など体育行事	3.8
23 運動会など体育行事	2.0	夏まつりなど地域イベント	-11.2	高齢者対象の行事	-5.0	高齢者対象の行事	3.1
24 高齢者対象の行事	1.9	運動会など、体育行事	-22.0	運動会など体育行事	-9.3	夏まつりなど地域イベント	-1.5

「移動支援」「安全な通学路や生活道路の確保」が最も不足しているという結果でした。「移動支援」「高齢者生活支援」は、運転できない高齢者の増加が見込まれるので、今後より必要となる活動と言えそうです。逆に、行事やイベントは、ある程度満足できている様子なので、地域活動を見直す場合、これらイベントや行事の負担軽減も検討する必要があります。ITを活用した住民向け広報や「農地維持や荒廃農地解消」「空き家の管理支援」は、世代間で差が大きいので、互いの考え方の違いを理解することが今後の地域づくりに必要そうです。

問4-2:下記のそれぞれの活動について協力できますか？

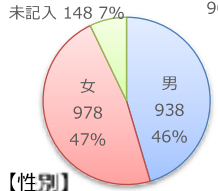


住民の多くが、地域活動へ協力する意思があるようです。防災や防犯など、既存の安全安心のための活動以外にも、「移動支援」「安全な通学路の確保」「高齢者生活支援」など、不足感の高かった活動に、各700人以上が協力できると回答しています。今後の長野地区の活動に期待ができそうです。

『豊浜地区中学生以上全住民アンケート2022結果報告(抜粋)』

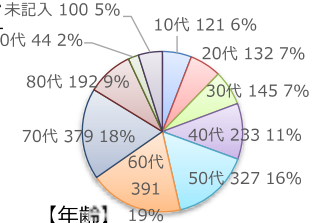
みなさんにご協力いただいたアンケートの集計結果の抜粋です。豊浜地区地域づくり協議会が、豊浜地区にお住まいの中学生以上の全住民を対象に、実施致しました。回収率が92%と非常に高いので、豊浜地区をより住みやすい地域にするにはどうしたらいいのか、今後考えていくための重要なデータになることと思います。

1.回答者について



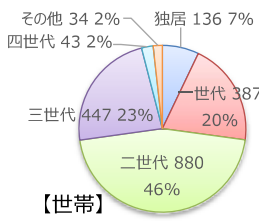
【性別】

回収率は92%と高く、このようなアンケートに回答する機会が少なかった女性が半数を占めています。



【年齢】

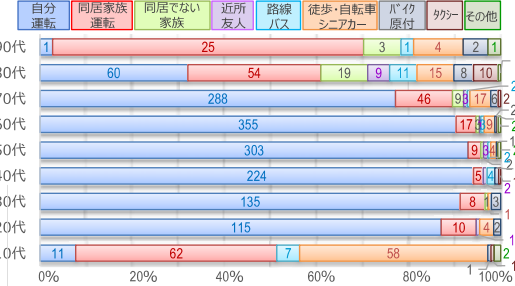
約半分が60代以上ですが、40代以下も3割いるので、幅広い年代から回答を得ていることがわかります。



【世帯】

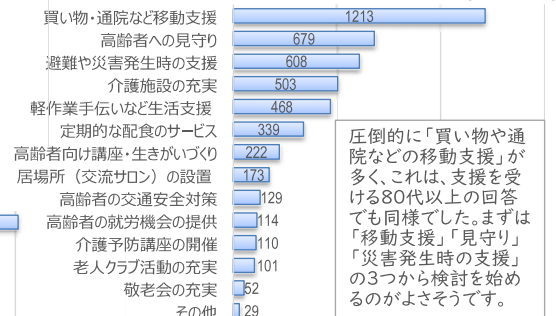
二世帯(親子)、三世帯、四世代が7割以上なので、今のところ家族内での助け合いができています。しかし、20%の一世帯の約半数は70歳以上であることを考えると、今後独居世帯も増加することが見込まれるので備える必要がありそうです。

問11:日常的な移動手段は何ですか？



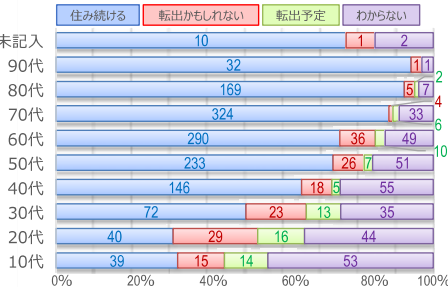
70代までは「自分で運転」が約80%ですが、80代以上になると約30%に急減し、他者の助けが必要になります。今後、80代が増加することが想定されるので、移動手段を持たない方への支援が重要な課題であることがわかります。

【高齢者対策】問12:力をいれた方がいいことは何ですか？(3つまで)



圧倒的に「買い物や通院などの移動支援」が多く、これは、支援を受ける80代以上の回答でも同様に多いです。まずは「移動支援」「見守り」「災害発生時の支援」の3つから検討を始めるのがよさそうです。

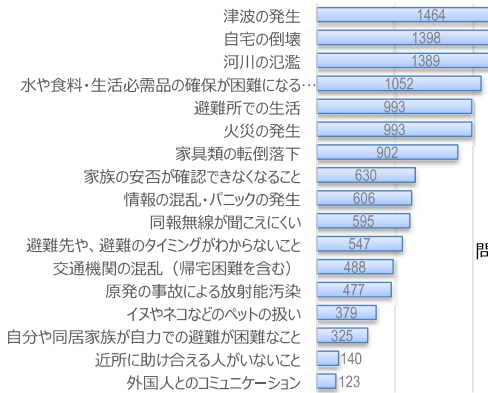
問3:あなたは豊浜地区に今後も住み続ける予定ですか？



「転出予定」「転出するかもしれない」が12%で231人でした。若い世代ほど転出する可能性が高いことがわかります。10代20代が進学や就職等で転出するのはやむを得ませんが、その世代が帰ってきてなくなる、そして30代、40代が住み続けなくなる地域づくりが必要そうです。

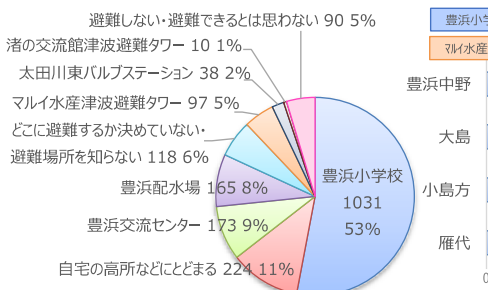
3.豊浜地区の防災活動について

問8:大規模災害が発生したら、何が心配ですか？(すべてに○)



「津波の発生」「河川氾濫」は、ハード整備として行政に頼るところも大きいですが、「自宅倒壊」「水食料の確保」「家具類の転倒落下」は各家庭で備えることが可能です。「避難所生活の不安」「情報の混乱・パニックの発生」「避難のタイミングがわからない」は、地域で支えあうことで軽減ができます。災害対策はハードでは、すべてをカバーしきれません。地域内の人のつながりや情報共有を促進し、ソフト面を整え、事前に備えていくこともとても重要です。

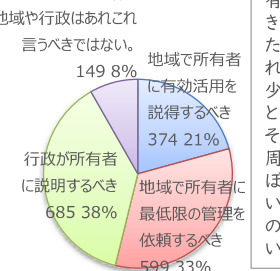
問9:自宅で大規模地震が発生したとき、津波避難場所として、どこに避難するか決めてありますか？(ひとつに○)



半数1000人以上が「豊浜小学校」に避難予定なので、豊浜小では、多くの住民が殺到し、長時間避難する可能性を想定する必要があります。その他の避難場所もおおよその人数が判明したので、備えることができます。「どこに避難するか決めていない」「避難しない・避難できるとは思わない」という、合計約200名の行動は、近隣住民や消防、警察などが、避難の促しや説得を行うことで、被害が広がる可能性があります。早急に検討する必要があります。

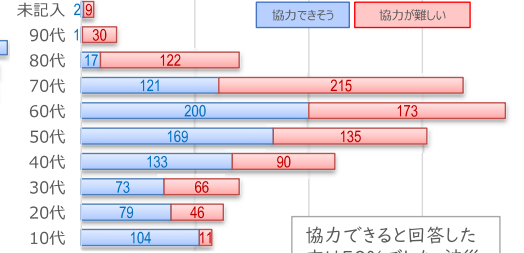
【空き家対策】

問15:空き家についてどうするべきですか？

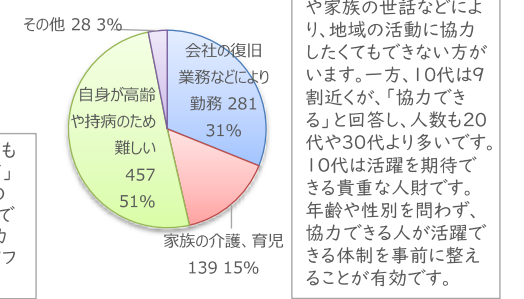


「地域で有効活用を説得するべき」「地域で所有者に管理を依頼すべき」が合わせて54%でした。地域や行政があれこれ言うべきではないは少数なので、地域の問題として考えている人は多そうです。地域で所有者に最低限の管理を依頼するべき、行政が取り組むべき、移住者が増えるよう、行政が力をいれて取り組むべき、現状のまま、行政が取り組むべき、移住者が減るよう、行政が力をいれて取り組むべき、はしくてよい、99.5%、いい、340、19%、悪い、653、36%。

問10-1:自身や周囲に被害がなかった場合、地域活動に協力できそうですか？



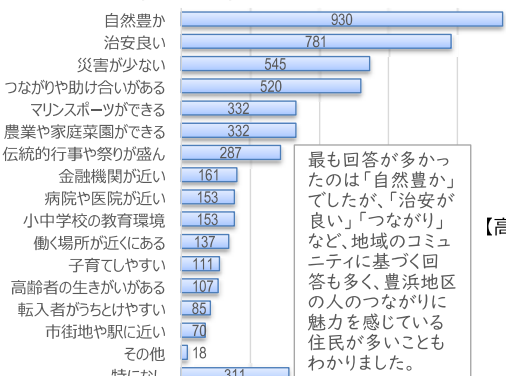
問10-2:「協力が難しい」と回答した人の理由



協力ができると回答した方は50%でした。被災時は、仕事の復旧作業や家族の世話などにより、地域の活動に協力しなくてはならない方がいます。一方、10代は9割近くが、「協力できる」と回答し、人数も20代や30代より多いです。10代は活躍を期待できる貴重な人財です。年齢や性別を問わず、協力できる人が活躍できる体制を事前に整えることが有効です。

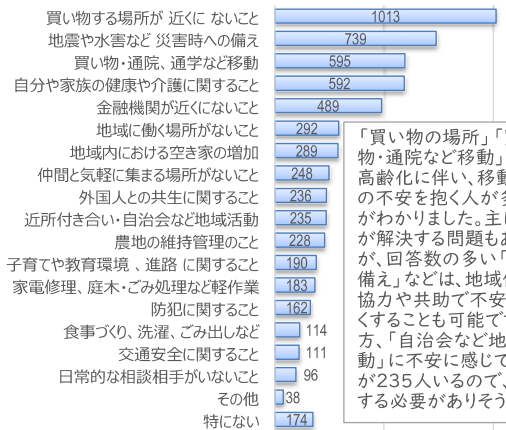
2.豊浜地区の生活について

問1:豊浜地区に住んで、あなたが良いと思う点、満足している点はどれですか。(3つまで)



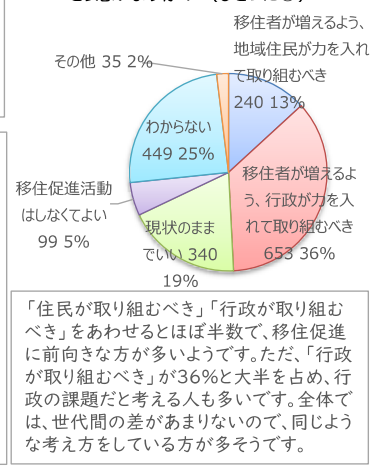
最も回答が多かったのは「自然豊か」でしたが、「治安が良い」「つながり」など、地域のコミュニティに基づく回答も多く、豊浜地区の人のつながりに魅力を感じている住民が多いこともわかりました。

問2:豊浜地区で生活をするうえで、あなたが不安に感じていること困っていることは何ですか？(すべてに○)



「買い物の場所」「買い物・通院など移動」が多く、高齢化に伴い、移動などの不安を抱く人が多いことがわかりました。主に個人が解決する問題もありますが、回答数の多い「災害の備え」などは、地域住民の協力や共助で不安を小さくすることも可能です。一方、「自治会など地域活動」に不安を感じている人が235人いるので、検討する必要があります。

問16:今後の豊浜の移住促進活動についてどう思いますか？(ひとつに○)



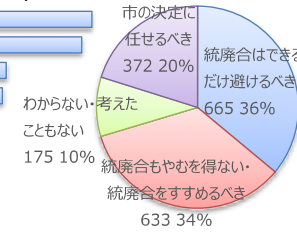
「住民が取り組むべき」「行政が取り組むべき」を合わせるとほぼ半数で、移住促進に前向きな方が多いようです。ただ、「行政が取り組むべき」が36%と大半を占め、全体で、世代間の差がありません。全体では、世代間の差がありません。世代間の差がないので、同じような考え方をしている方が多そうです。

4. 豊浜地区の子育て・教育について

問14: 子育て世代が安心して暮らせるためにどのような活動や施設が充実すればよいですか？(すべてに○)



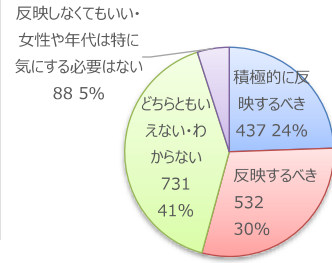
問13: 豊浜小学校の統廃合についてどう考えますか？



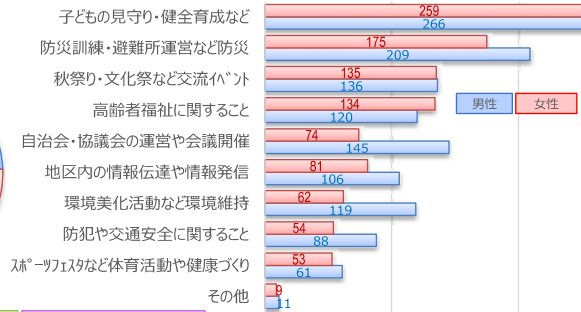
「統廃合はできるだけ避けるべき」と「統廃合もやむを得ない(検討)」がほぼ同数で、考え方が分かれてきました。年代別では、20代30代は、「統廃合もやむを得ない(検討)」が非常に多い結果でした。学校の存続については、誰のための学校なのかを、関わる人たちで話し合い、考える必要があります。

【多世代の参画】

問19: 地域活動に女性や若い世代の声を、今よりも反映するべきだと思いますか？



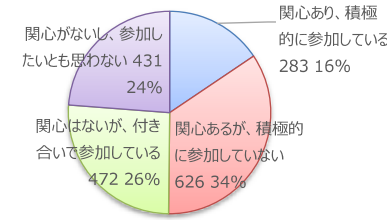
問19-1: 「積極的に反映するべき」「反映するべき」を回答した方へ、どのようなことで女性や若い世代の声を反映するべきですか？



「積極的に反映すべき」「反映すべき」が54%で、男女別では、男性の方が「反映すべき」と考えている方が多い結果でした。反映すべき活動は、「子ども健全育成」「防災」が男女ともに多く、次いで男性は「自治会組織運営や会議開催」、女性は「交流イベント」「高齢者福祉」と、性別による違いがありました。女性や若い世代を含めた地域づくりを目指すのなら、今回の意見を参考に取組やすい分野から進めていくのが良さそうです。

5. 豊浜地区の地域活動について

問6: 地域活動への関心と参加状況を教えてください。



参加は約半数ですが、その約2/3が「付き合いで参加」です。「関心があるが参加していない」は34%で、女性の方が多結果でしたので、活動への理解を促しつつ、女性の参画を進めるのが有効かもしれません。

全体では「登下校の見守りなど子どもの安全を支える活動」が最多でしたが、年代別の子どもや親世代(30~50代)では、「子供の居場所づくり」の回答が多い結果でした。

問4: 豊浜地区で行っている・今後行うべきと24の地域活動の[重要度]-[満足度]を求め、過不足の度合いを年代別にしました。

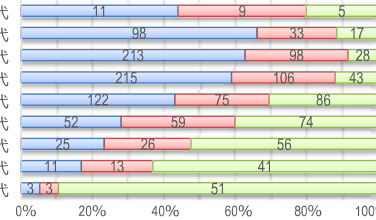
活動が不足 重要なのに満足していない	10~20代				30~50代				60~70代				80~90代			
	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度		
1	買物・通院など移動支援	60.7	買物・通院など移動支援	77.7	買物・通院など移動支援	80.2	買物・通院など移動支援	72.2								
2	空き家の管理支援	44.8	高齢者生活支援	56.7	空き家の管理支援	72.2	空き家の管理支援	61.1								
3	防災活動	44.2	防災活動	49.9	高齢者生活支援	58.1	農地維持・荒廃農地解消	49.3								
4	農地維持・荒廃農地解消	40.8	空き家の管理支援	45.3	防災活動	55.0	防災活動	48.6								
5	高齢者生活支援	38.9	防犯活動	39.2	農地維持・荒廃農地解消	53.0	不安や悩みの相談場所	43.9								
6	消防活動	37.3	消防活動	38.9	消防活動	48.3	高齢者生活支援	42.5								
7	子ども対象の行事	35.9	農地維持・荒廃農地解消	35.4	不安や悩みの相談場所	42.1	消防活動	38.6								
8	防犯活動	34.0	交通安全に関する活動	35.4	防犯活動	34.2	防犯活動	27.2								
9	不安や悩みの相談場所	30.2	子ども対象の行事	31.6	子ども対象の行事	33.7	交通安全に関する活動	26.4								
10	美化・環境保全活動	29.5	不安や悩みの相談場所	27.3	美化・環境保全活動	32.8	美化・環境保全活動	24.2								
11	交通安全に関する活動	27.1	美化・環境保全活動	25.2	交通安全に関する活動	31.9	子ども対象の行事	24.1								
12	回覧板・地区内情報共有	17.6	回覧板・地区内情報共有	18.5	回覧板・地区内情報共有	26.3	回覧板・地区内情報共有	22.1								
13	生涯学習・生きがいづくり	13.8	生涯学習・生きがいづくり	9.8	生涯学習・生きがいづくり	10.8	スポーツ大会・体育行事	6.0								
14	伝統文化・芸能の継承	10.3	健康体操・健康づくり	9.5	伝統文化・芸能の継承	9.2	生涯学習・生きがいづくり	1.6								
15	高齢者対象の行事	9.6	伝統文化・芸能の継承	6.1	健康体操・健康づくり	6.8	伝統文化・芸能の継承	-0.1								
16	健康体操・健康づくり	8.1	高齢者対象の行事	-0.6	秋祭りなどのイベント	0.1	健康体操・健康づくり	-0.7								
17	秋祭りなどのイベント	7.2	秋祭りなどのイベント	-7.0	スポーツ大会・体育行事	-2.8	秋祭りなどのイベント	-1.6								
18	スポーツ大会・体育行事	0.0	スポーツ大会・体育行事	-20.1	高齢者対象の行事	-6.2	高齢者対象の行事	-4.7								

※「とても重要」と「やや重要」の回答率から、「あまり重要でない」と「重要でない」の回答率を引いたものを、重要度指数とし、同様に計算した満足度指数を引いた結果を数値で表記しました。

どの世代でも「移動支援」が最も不足している活動でした。そして、同様にどの世代でも「体育行事」「高齢者対象の行事」「秋まつりなどのイベント」は、充分に活動が出来るという結果でした。豊浜地区は、世代間の地域活動の過不足の認識にあまり差がないので、世代間ギャップは小さそうです。上位の活動を推進したり、行事やイベントの見直し進めやすい環境下にありそうです。

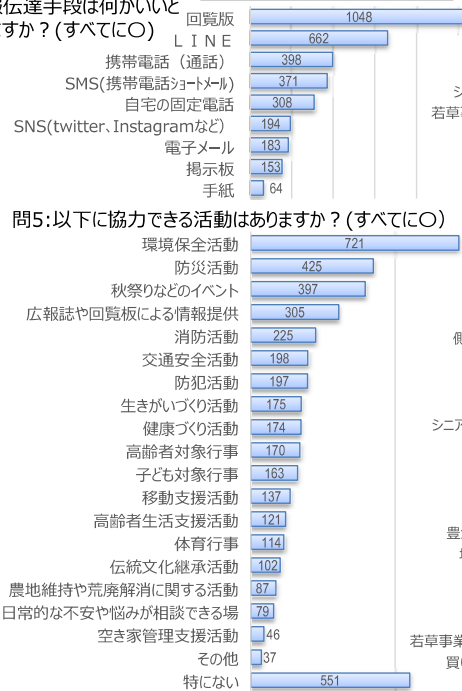
【情報伝達について】問17: 回覧板を見ているか？

自分が回覧板で知る 家族が回覧板で知る 家族以外から知る 終了後に知る・知らないまま

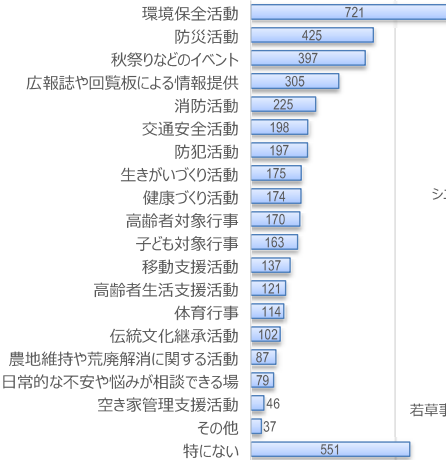


若い人ほど回覧板を見ない傾向がわかりました。情報伝達手段は、全体では、回覧板の回答が最多ですが、年代別の30~40代では回覧板よりLINEが多くなっています。回覧板を見なくてもLINEを見る方もいそうです。しばらくは回覧板とLINEの併用が有効かもしれません。

問12: 情報伝達手段は何がいいと思いますか？(すべてに○)

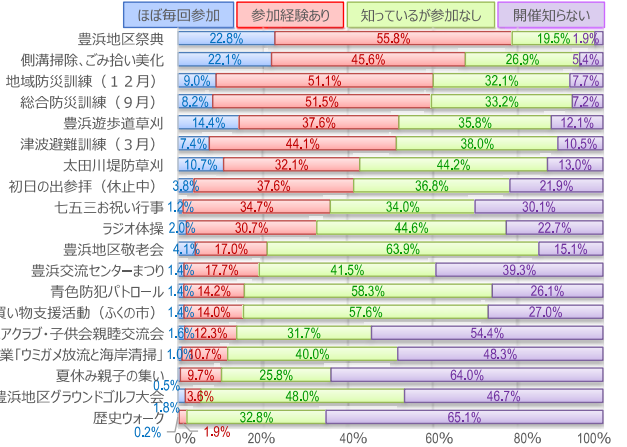


問5: 以下に協力できる活動はありますか？(すべてに○)

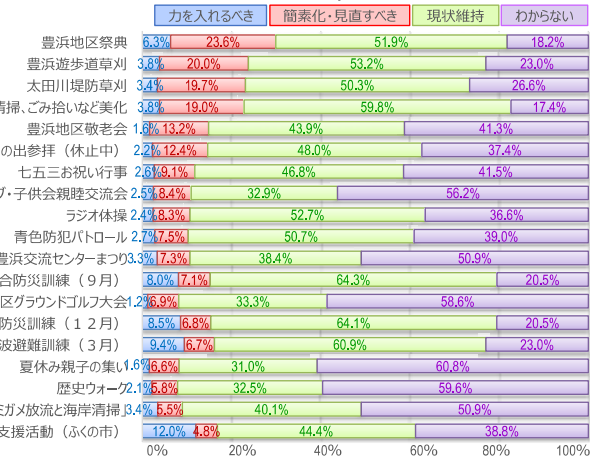


多くの住民が、協力の意思があることがわかりました。環境保全活動はもちろんですが、不足感の高い「移動支援」 「防災活動」 「高齢者生活支援」活動にも、それぞれ120人以上が「協力できる」と回答しているため、今後の活動に大いに期待ができそうです。

問7-1: 以下の行事や活動に参加したことはありますか？



問7-2: 今後どうしたいと思いますか？(あてはまるものに○)

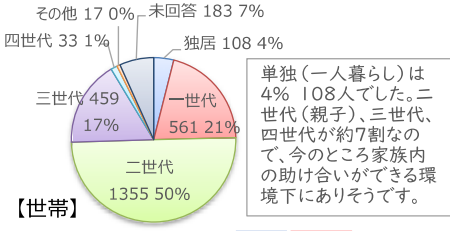
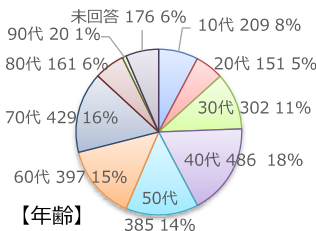
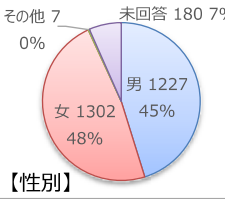


対象者を広く募りながらも「開催・実施を知らない」が多い「歴史ウォーク」「夏休み親子の集い」などは、情報発信方法や目的、内容の確認が必要です。買い物に不安を感じる人が多い結果に伴い「買い物支援活動」が力を入れるべき活動のトップでした。「簡素化・見直し」の上位の「祭典」「草刈り」「側溝清掃・美化運動」についても検討する必要がありそうです。

『豊田東地区中学生以上全住民アンケート2022結果報告(抜粋)』

みなさんにご協力いただいたアンケートの集計結果の抜粋です。豊田東地区まちづくり協議会が、豊田東地区にお住まいの中学生以上の全住民を対象に、実施致しました。回収率が87%と非常に高いので、豊田東地区をより住みやすい地域にするにはどうしたらいいのか、今後考えていくための重要なデータになることと思います。

1.回答者について



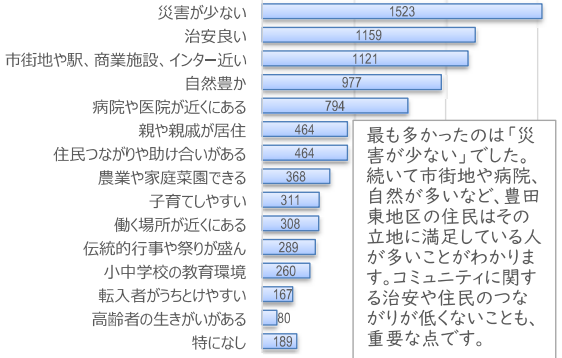
単独(一人暮らし)は4% (108人)でした。二世帯(親子)、三世帯、四世代が約7割なので、今のところ家族内の助け合いができる環境下にあります。

【性別】
回収率は87%と高く、このようなアンケートに回答する機会が少なかった女性が半数を占めています。

【年齢】
幅広い年代から回答を得ることがわかります。40代以下の回答が4割以上となっており、若い世代の意見も多く集まっています。

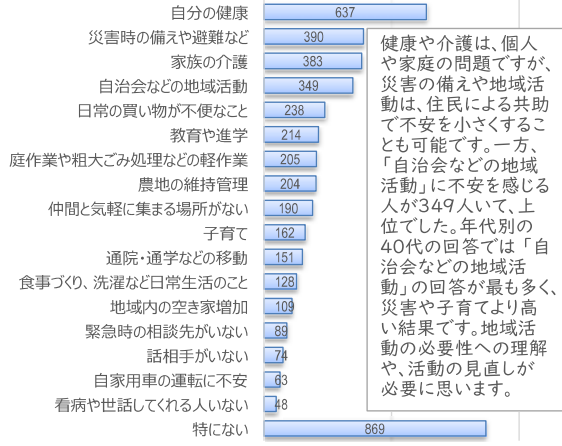
2.豊田東地区の生活について

問1: 豊田東地区に住んで、あなたが良いと思う点、満足している点はどれですか。(3つまで)



最も多かったのは「災害が少ない」でした。続いて市街地や病院、自然が多いなど、豊田東地区の住民はその立地に満足している人が多いことがわかります。コミュニティに関する治安や住民のつながりが低くないことも、重要な点です。

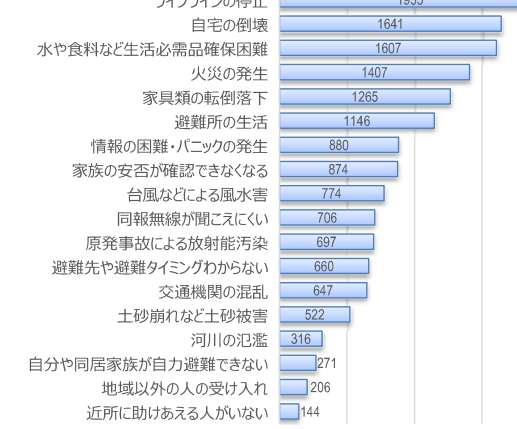
問2: 豊田東地区で生活をするうえで、あなたが不安に感じていること、困っていることは何ですか? (あてはまるものすべてに)



健康や介護は、個人や家庭の問題ですが、災害の備えや地域活動は、住民による共助でも可能です。一方、「自治会などの地域活動」に不安を感じる人が349人いて、上位でした。年代別の40代の回答では「自治会などの地域活動」の回答が最も多く、災害や子育てより高い結果です。地域活動の必要性への理解や、活動の見直しが必要に思います。

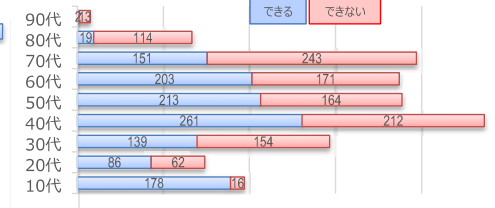
3.豊田東地区の防災活動について

問7: 大規模災害が発生したら、何が心配ですか? (5つまで)

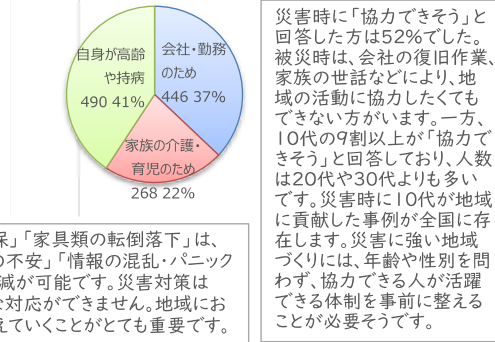


回答の多かった「ライフラインの停止」「自宅倒壊」「水食料の確保」「家具類の転倒落下」は、各家庭で一定程度は備えることができます。一方、「避難所生活の不安」「情報の混乱・パニックの発生」は、地域で支えあったり、情報提供を行うことで不安の軽減が可能です。災害対策はハードでは全てをカバーしきれず、大規模災害時は、行政も十分な対応ができません。地域において、住民同士の支えあいや情報共有を促進するソフト面から備えていくことがとても重要です。

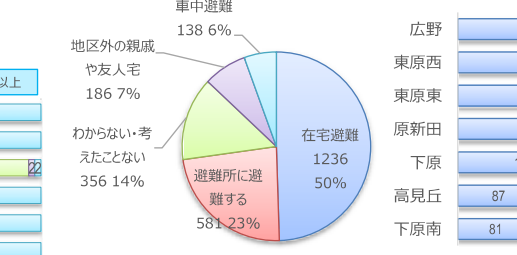
問9-1: 自身や周囲に被害がなかった場合、地域活動に協力できそうですか?



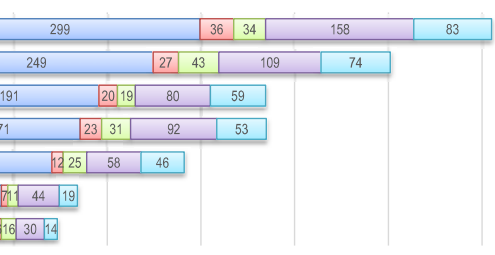
問9-2: 「協力が難しい」と回答した人の理由



問10: 自宅が被害を受けたら避難所へ避難しますか?

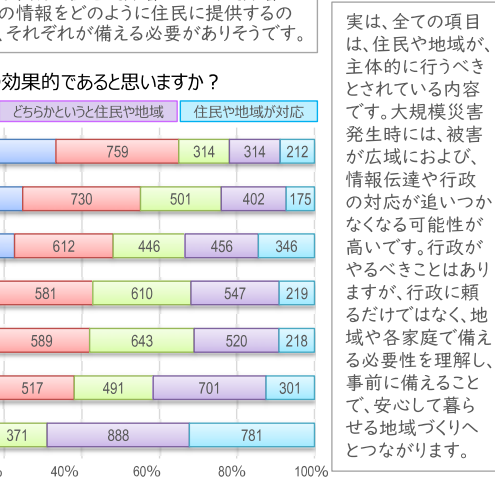


問10: 自宅が被害を受けたら避難所へ避難しますか? (在宅避難 車中避難 地区外の親戚友人 避難所 わからない)



「避難所に避難する」と回答した人が581人、23%でした。この人数を指定された避難所で収容し、避難所運営に問題ないかの確認は必要に思います。さらに、約半数が在宅避難者なので、避難者の避難情報の把握をどのようにするのか、また物資供給や医療の情報をどのように住民に提供するのかを整理し、事前に情報提供方法を住民に伝え、地域と住民、それぞれが備える必要があります。

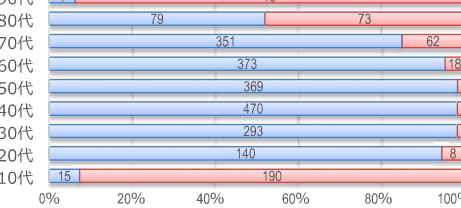
問8: 各防災対策は、誰が行うことが現実的かつ効果的だと思いますか?



「転出予定」「転出するかも」が全体の7% (194人)で、市内他地区と比較しても、低い結果でした。若い世代ほど転出の可能性が高いのですが、進学や就職等でやむを得ないと思われるためです。住み続ける可能性が高い高齢者が暮らしやすく、若い世代が戻ってきやすくなる地域づくりが必要です。

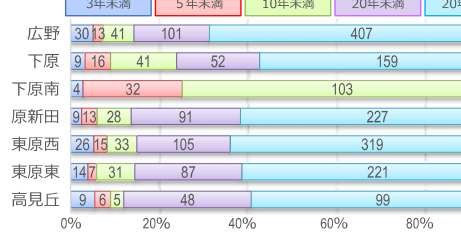
実は、全ての項目は、住民や地域が、主体的に行うべきとされている内容です。大規模災害発生時には、被害が広域におよび、情報伝達や行政の対応が追いつかなくなる可能性が高いです。行政がやるべきことはありますが、行政に頼るだけではなく、地域や各家庭で備える必要性を理解し、事前に備えることで、安心して暮らせる地域づくりへとつながります。

問: 車の免許を持っていますか? (はい いいえ)



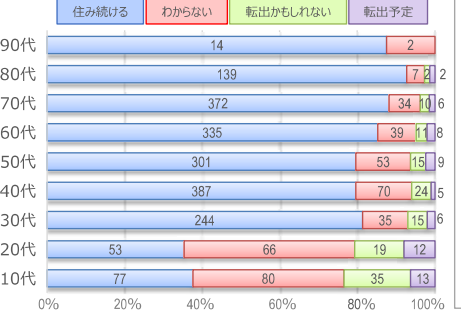
免許を持たない人が650人(15%)いて、80代になると約半数を占めます。今後、80代が増え、運転ができない人が急速に増えることが予想されます。

問: 豊田東地区に住んで何年ですか?



全体では20年以上の方が約6割でしたが、10年未満も約3割でした。居住地の分類では、下原南はほとんどの人が10年未満という結果で、年代別では、40代の3割、30代の6割が10年未満でした。この地域や世代の多くが、地区の昔からの慣習やしきたりなどについて、知らない可能性があります。

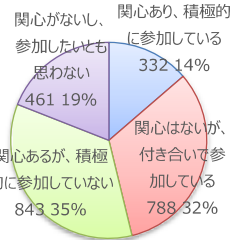
問3: あなたは豊田東地区に今後も住み続ける予定ですか?



4. 豊田東地区の地域活動について

問5: 地域活動への関心と参加状況を教えてください。

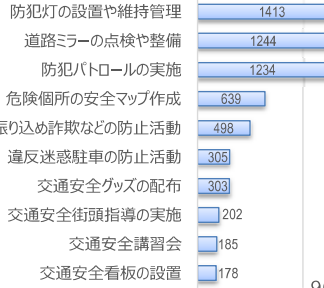
参加している人は約半数ですが、その約2/3が「付き合いで参加」です。「関心があるが参加していない」は35%ですが、女性の方が多いため、地域活動への理解を促しつつ、女性の参画を進めるのが豊田東の地域づくりには有効そうです。



【防犯対策】

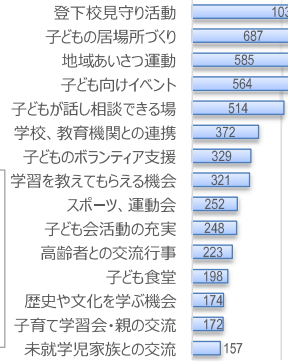
問16: 犯罪や交通事故から住民を守るために力をいれた方が良いことは何ですか？（3つまで○）

同様のアンケートを実施した他地域と比較して「防犯活動」を不足と考えている人が多い傾向です。全体的に実効性が高く、物理的な改善を求める意見が多いので、どの場所が有効なのか地域で検討し、優先順位をつけて取り組むことが有効だと思います。



【子どもの健全育成】

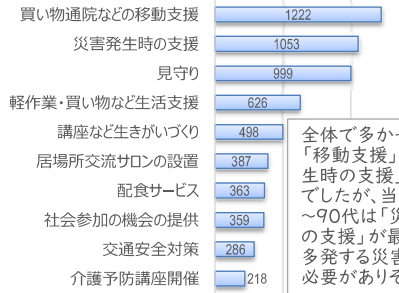
問14: 力をいれた方が良いことは何ですか？（3つまでに○）



「登下校の見守り」の希望が多いので、世代を超え、地域全体で見守る体制が望めます。親世代も「登下校の見守り」が最も多い回答でしたが、「子どもの居場所づくり」や「子ども向けイベント」にも期待があるようです。一方、「地域あいさつ運動」が全世代の回答よりも少ない傾向があるため、要因を確認する必要があります。

【高齢者対策】

問15: 高齢者が安心して暮らすために、力をいれた方が良いことは何ですか？（3つまでに○）



全体で多かったのは「移動支援」「災害発生時の支援」「見守り」でしたが、当事者の80~90代は「災害発生時の支援」が最多でした。多発する災害に備える必要があります。

問4-1: 豊田東地区で行っている・今後行うべきと24の地域活動の[重要度]-[満足度]を求め、過不足の度合いを年代別にしました。

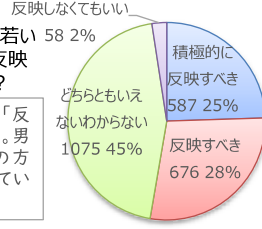
Table with 5 columns: Activity, 10~20代, 30~50代, 60~70代, 80~90代. Lists 24 activities and their importance/satisfaction scores across four age groups.

高齢の世代は「農地維持や荒廃解消」が一番不足度が高いのですが、若い世代は「子育て支援」や「子どもの居場所づくり」が上位にあり、世代間のギャップが大きく出ています。一方、「体育行事」「秋祭りイベント」をはじめとする行事については、ほとんどの世代で充足度が高い結果でした。多くの住民が行事より生活に関わる地域活動が必要だと思っている傾向がみとれます。

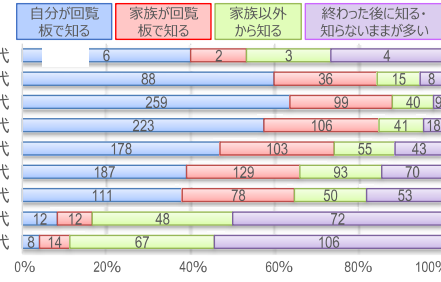
【多世代の参画】

問13: 地域活動に女性や若い世代の声を、今よりも反映すべきだと思いますか？

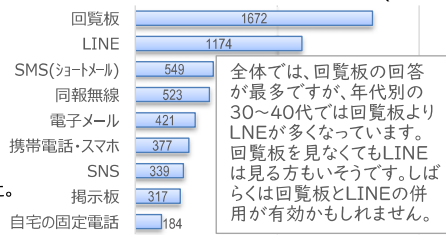
「積極的に反映すべき」「反映すべき」約半数でした。男女別では、若干、男性の方が「反映すべき」と考えている人が多い結果でした。



【情報伝達について】問11: 回覧板を見ていますか？

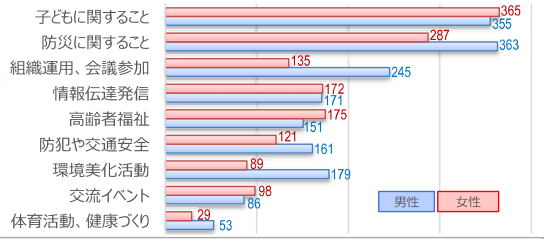


問12: 情報伝達手段は何がいいと思いますか？（すべてに○）



全体では、回覧板の回答が最もですが、年代別の30~40代では回覧板よりLINEが多くなっています。回覧板を見なくてもLINEは見る方もいそうです。しづらくは回覧板とLINEの併用が有効かもしれません。

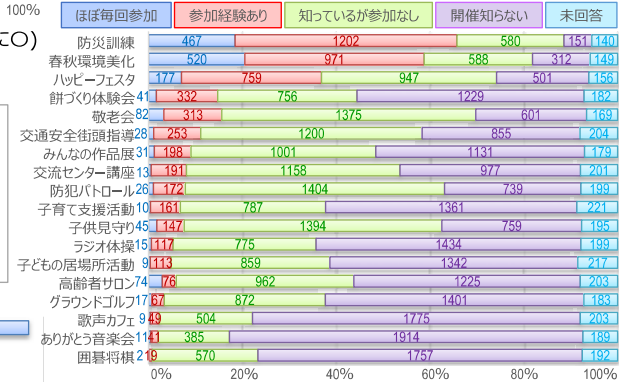
問13-2 「積極的に反映するべき」「反映するべき」を回答した方へ。どのようなことで女性や若い世代の声を反映するべきですか？



【問13-2】男女とも「子ども」「防災」が多いのですが、続く回答は、男性は「自治会組織運営や会議開催」、女性は「高齢者福祉」「情報伝達発信」と異なっています。多様な住民参画を目指すなら、今回の意見を参考に、取り組みやすい分野から進めていくのがよさそうです。

【問11】全体では、「必ず見ている」「ほとんど見ている」が68%でした。ただ、60代以上は80%以上でしたが、30・40代では70%以下となり、若い世代ほど、回覧板を見ない傾向であることがわかります。若い世代に伝えたいことは回覧板では不十分と言えそうです。

問6-1: 以下の行事や活動に参加したことはありますか？



問6-2: 今後どうしたいと思いますか？（あてはまるもの○）

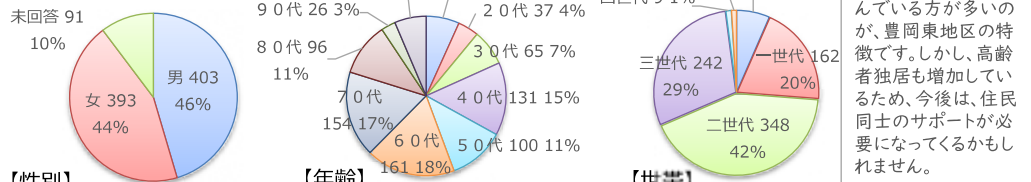


対象者を広く募りながらも「開催・実施を知らない」が多い「餅づり体験」、「ありがどう音楽祭」などは、情報発信方法や目的、内容の確認が必要そうです。「防災訓練」、生活の安心安全に直結する「子ども見守り」、「防犯パトロール」は「力を入れるべき」が多いです。見直しの声がある活動については、活動の見直しの再考も必要かもしれませんが、活動の目的や必要性についての住民の理解が必要なかもしれません。

『豊岡東地区中学生以上全住民アンケート2022結果報告(抜粋)』

みなさんにご協力いただいたアンケートの集計結果の抜粋です。豊岡東地区まちづくり協議会が、豊岡東地区にお住まいの中学生以上の全住民を対象に、実施致しました。回収率が92%と非常に高いので、豊岡東地区をより住みやすい地域にするにはどうしたらいいのか、今後考えていくための重要なデータになることと思います。

1.回答者について



【性別】

今まで回答する機会が少なかった、女性の回答が半数近く入っています。近年、女性の意見をまちづくりに生かす地域が増えていきます。

【年齢】

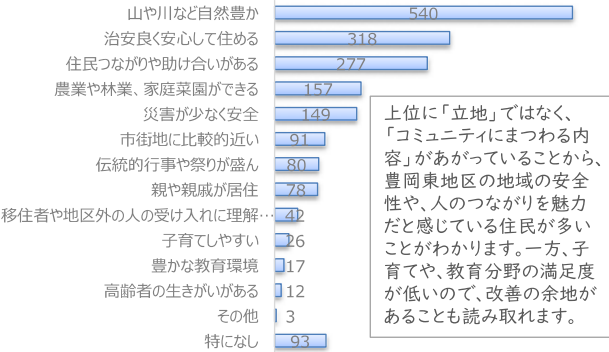
今まで回答する機会が少なかった10代から40代の意見も、数多く入っています。これからの豊岡東を担っていく世代の意見です。

【世帯】

三世帯・四世代で住んでいる方が多いのが、豊岡東地区の特徴です。しかし、高齢者独居も増加しているため、今後は、住民同士のサポートが必要になってくるかもしれません。

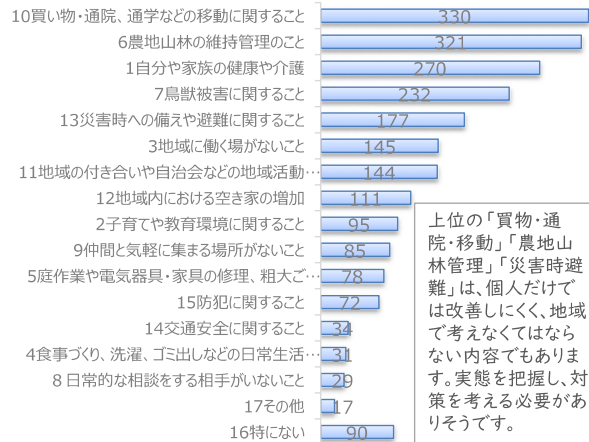
2.豊岡東の生活について①

問1：豊岡東地区に住んでいてあなたが良いと思う点、満足している点は何ですか？（〇は3つまで）



上位に「立地」ではなく、「コミュニティにまつわる内容」があがっていることから、豊岡東地区の地域の安全性や、人のつながりを魅力だと感じている住民が多いことがわかります。一方、子育てや、教育分野の満足度が低いので、改善の余地があることも読み取れます。

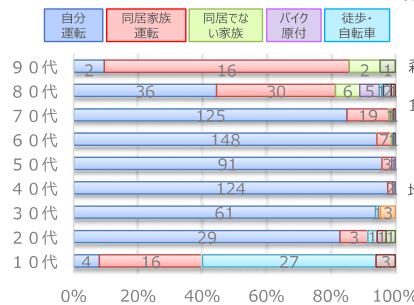
問2：豊岡東地区で生活をすううえで、あなたが不安に感じていること、困っていることは何ですか？（あてはまるものすべてに〇）



上位の「買い物・通院・移動」「農地山林管理」「災害時避難」は、個人だけでは改善しにくく、地域で考えなくてはならない内容でもありません。実態を把握し、対策を考える必要があります。

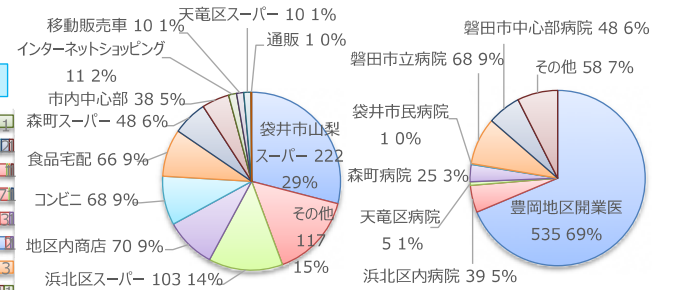
3.豊岡東の生活について②

問11：仕事や通学、買い物、通院などの日常的な移動手段はどのようになっていますか？



全体では73%の人が「自分で運転」ですが、80代以上になると50%以下に減ります。今後、80代が増えるので、買い物や通院が、自分でできなくなる方が増え、移動支援が必要になるだろうことが読み取れます。

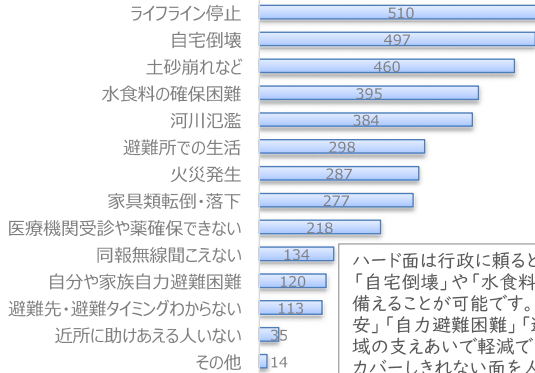
問11-1：どこで食料品を買いますか？ 問11-2：どの医療機関に行きますか？



買い物先は多様ですが、「豊岡東地区内」「宅配」「移動販売」の方が2割弱です。80代以上にこの傾向が強くなり、今後、移動手段を持たない人が増えることを考えると、地区内や宅配などで買い物ができるようになることは、重要なことだとわかります。一方、医療は地区内の開業医の利用者が多く、地区内の医療機関までの移動手段さえ確保できれば、ある程度カバーできるだろうことも見えてきます。

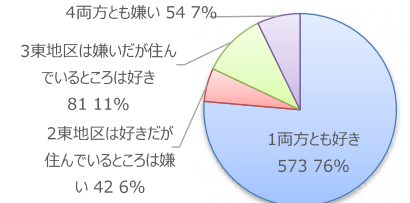
4.豊岡東地区の防災活動について

問8：地震や洪水などの大規模自然災害発生時、何が心配ですか？（あてはまるものに〇）

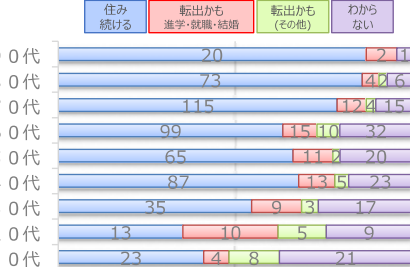


免許を持たない人が151人(18%)いて、80代になると免許の保持率が約半分に減ります。今後、80代が増えることで、運転のできない人が急速に増えていくことが予想されます。

問3 あなたは、豊岡東地区のこと、また、住んでいるところは好きですか？（あてはまるものひとつに〇）

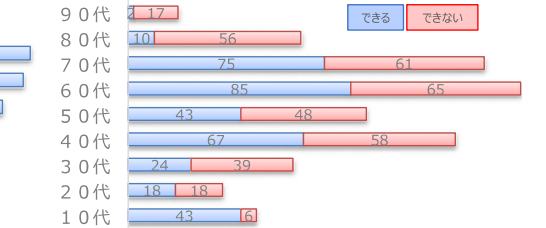


問4：あなたは豊岡東地区に今後も住み続ける予定ですか？

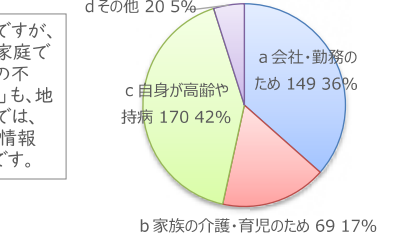


若い世代ほど転出する可能性が高いことがわかります。若い世代は、進学や就職等で転出することもやむを得ないのですが、他の世代が転出せず、住み続けられる地域づくりも重要です。

問10：自身や家族に大きな被害がなかった場合、避難所運営や物資の配付など地域活動に、協力できそうですか？

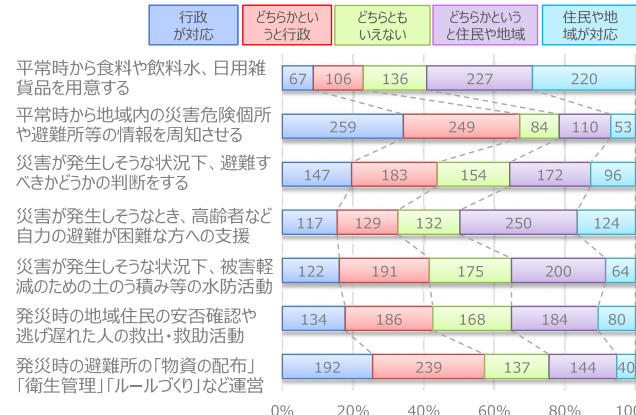


問10-2 「協力が難しい」と回答した人の理由



ハード面は行政に頼るところも大きいですが、「自宅倒壊」や「水食料の確保」は各家庭で備えることが可能です。「避難所生活の不安」「自力避難困難」「避難タイミング」も、地域の支えあいで軽減できます。ハードでは、カバーしきれない面を人のつながりや情報共有の促進で補うことは非常に有効です。

問9：各防災対策は、誰が行うことが現実的かつ効果的だと思いますか？



平常時から食料や飲料水、日用雑貨品を用意する

平常時から地域内の災害危険箇所や避難所等の情報を周知させる

災害が発生しそうな状況下、避難すべきかどうかの判断をする

災害が発生しそうなとき、高齢者など自力の避難が困難な方への支援

災害が発生しそうな状況下、被害軽減のための土の積み等の水防活動

防災時の地域住民の安否確認や逃げ遅れた人の救出・救助活動

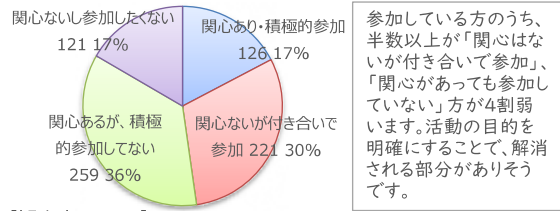
防災時の避難所の「物資の配布」「衛生管理」「ルールづくり」など運営

【問10】災害時に協力できると回答した方は全体の49%でした。被災時は、仕事の復旧作業、家族の世話などで、地域活動に協力したくてもできない方がいます。その一方で、10代の9割近くが、「協力できる」と回答しており、20代や30代よりも多く、10代は活躍を期待できる人財です。年齢や性別を問わず、協力できる事前の体制づくりが重要そうです。

【問9】大規模地震の発生時には、被害が広域におよび、行政の対応が追いつかなくなる可能性があります。豪雨災害時も、行政の対応や情報伝達が完璧ではない可能性があります。行政がやるべきこともありますが、行政だけに頼らず、地域や各家庭でやれることを、今一度考えておく必要があります。

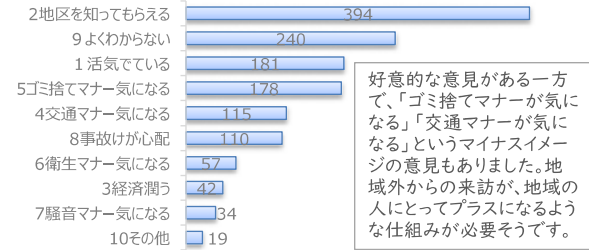
5.豊岡東地区の地域活動について

問7：地域活動への関心と参加状況を教えてください。



【観光客について】

問12：豊岡東地区にはキャンプやトレッキング、ハイキング、お花見を楽しむ方が多く訪れるようになってきましたが、どのように感じていますか？



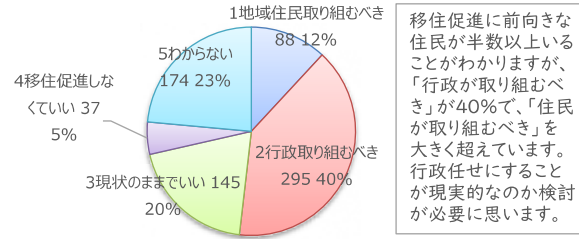
問5：豊岡東地区で行っている、またはこれから行うべきと考える20の地域活動について【重要度】-【満足度】の差を求め、豊岡東地区内の地域活動の過不足の割合を年代別にランキングにしました。

順位	10~20代	30~50代	60~70代	80~90代
1位	移動支援活動 63.2	移動支援活動 94.4	移動支援活動 92.0	移動支援活動 84.7
2位	高齢者の生活支援活動 49.5	高齢者の生活支援活動 78.6	農地山林荒廃防止放棄地解消 89.6	鳥獣被害防止のための活動 83.4
3位	未就園家庭へ子育て支援活動 47.3	鳥獣被害防止のための活動 67.5	鳥獣被害防止のための活動 88.0	農地山林荒廃防止放棄地解消 70.8
4位	地域産物を販売する経済活動 38.8	農地山林荒廃防止放棄地解消 65.9	高齢者の生活支援活動 74.5	高齢者の生活支援活動 48.3
5位	移住希望者の受け入れ活動 38.0	未就園家庭へ子育て支援活動 59.7	移住希望者の受け入れ活動 59.8	山林管理などの財産区の活動 45.5
6位	農地山林荒廃防止放棄地解消 35.4	移住希望者の受け入れ活動 54.2	未就園家庭へ子育て支援活動 56.5	防犯活動 44.5
7位	鳥獣被害防止のための活動 28.3	防犯活動 40.1	地域産物を販売する経済活動 51.7	地域産物を販売する経済活動 43.7
8位	住民以外への広報や情報発信 26.3	地域産物を販売する経済活動 39.8	山林管理などの財産区の活動 32.7	地区住民向け広報・情報共有 38.7
9位	防犯活動 25.4	住民以外への広報や情報発信 35.2	地域以外への広報や情報発信 32.3	未就園家庭へ子育て支援活動 38.5
10位	山林管理などの財産区の活動 24.8	交通安全活動 32.2	消防や防災活動 31.5	交通安全活動 33.2
11位	交通安全活動 22.9	子ども対象の行事・イベント 31.2	生涯学習や健康づくり活動 31.4	消防や防災活動 32.7
12位	消防や防災活動 22.6	消防や防災活動 29.1	交通安全活動 30.8	移住希望者の受け入れ活動 30.0
13位	人を呼び込むための交流活動 22.5	地域内美化・環境保全活動 23.3	防犯活動 30.7	生涯学習や健康づくり活動 23.3
14位	生涯学習や健康づくり活動 21.5	人を呼び込むための交流活動 22.4	地域内美化・環境保全活動 28.5	人を呼び込むための交流活動 22.5
15位	子ども対象の行事・イベント 21.2	山林管理などの財産区の活動 21.7	子ども対象の行事・イベント 27.9	地域内美化・環境保全活動 20.4
16位	地域内美化・環境保全活動 17.6	地区住民向け広報・情報共有 20.3	地区住民向け広報・情報共有 24.6	住民以外への広報や情報発信 19.7
17位	地区住民向け広報・情報共有 10.8	生涯学習や健康づくり活動 19.0	人を呼び込むための交流活動 20.0	子ども対象の行事・イベント 10.9
18位	伝統文化の継承 5.0	高齢者対象の行事開催 8.8	高齢者対象の行事開催 -4.1	伝統文化の継承 9.7
19位	高齢者対象の行事開催 2.4	伝統文化の継承 7.7	伝統文化の継承 -5.3	高齢者対象の行事開催 6.2
20位	地区住民が集うイベント開催 2.0	地区住民が集うイベント開催 -0.3	地区住民が集うイベント開催 10.3	地区住民が集うイベント開催 -6.1

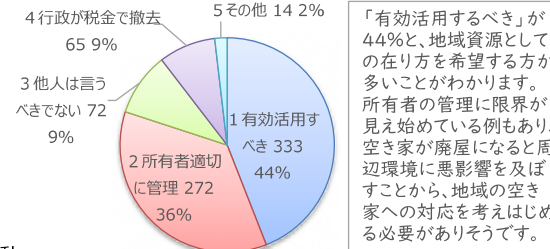
各種イベントの開催より、移動支援や高齢者の生活支援、子育て支援など生活にまつわる活動に必要性を感じている住民が多いようです。そして、鳥獣害対策や農地荒廃防止など、環境対策を優先して考えていきたい住民の思いも結果から見えてきました。豊岡東地区の特徴として、地域活動の過不足に対する認識に、世代間の違いがあまりないこともわかります。つまり、優先順位が高い活動であれば、比較的全世代の住民の理解を得やすいので、取り組みやすく、結果も出やすいだろうことが見えてきます。

【移住促進活動について】

問14：今後の豊岡東地区の移住促進活動についてどう思いますか？



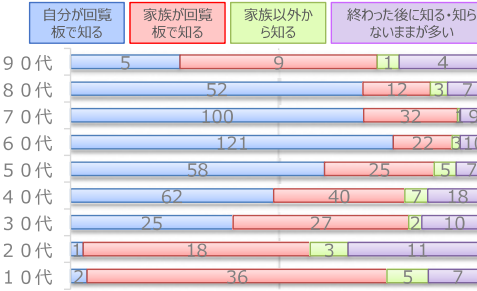
問15：近年、豊岡東地区でも空き家が目立つようになりまし。豊岡東地区では、空き家についてどうすべきだと思いますか？



※「とても重要」と「やや重要」の回答率から、「あまり重要でない」と「重要でない」の回答率を引いたものを、重要度指数とします。そして、同様に計算した満足度指数を引いた結果を数値で表記し、ランキングにしております。

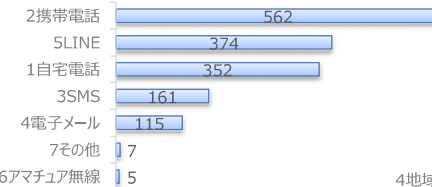
【情報伝達について】

問16：あなたは東地区からのお知らせ・イベント情報、活動の情報を、主にどうやって知りますか？



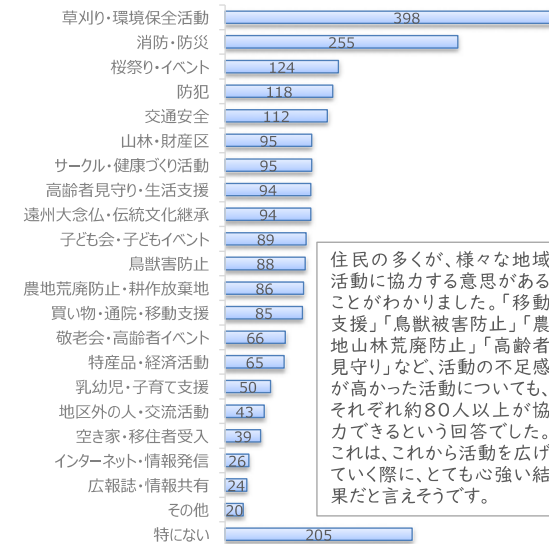
「自分が閲覧板で知る」が半数以上ですが、「終わった後に知る」という回答も1割以上でした。特に若い世代が多いため、若い世代に情報を伝えたいのであれば、情報伝達の方法も検討が必要そうです。

問17：あなたは連絡・情報伝達の手段として何を使っていますか？



「携帯電話」を使う方が最も多く、「固定電話」よりも「LINE」を使っている方が多いことがわかりました。年代別のデータでは、20代と30代の8割以上、60代でも4割以上がLINEを使用していました。即時に複数の人で情報が共有できること、また文字に残ることから、情報伝達において、有効なツールであることがわかります。

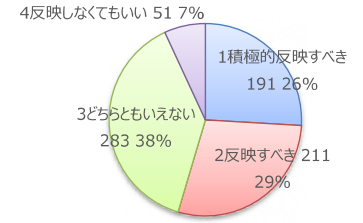
問6：豊岡東地区であなたがこれなら協力できる、これは手伝ってみたい、と思う活動が以下にありますか？（あてはまるものに○）



住民の多くが、様々な地域活動に協力する意思があることがわかりました。「移動支援」「鳥獣被害防止」「農地山林荒廃防止」「高齢者見守り」など、活動の不足感が高かった活動についても、それぞれ約80人以上が協力できるという回答でした。これは、これから活動を広げていく際に、とても心強い結果だと言えます。

【若者・女性の参画について】

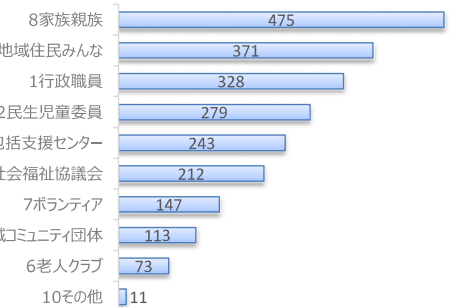
問18：地域の活動に女性や若い世代の声を、今よりも反映すべきだと思いますか？



「積極的に反映すべき」「反映すべき」をあわせて55%でした。男女別のデータでは、男性の方が「反映すべき」と考えている人が多くがわかりました。女性や若者が意見を述べやすい環境を整える必要がありそうです。

【高齢者の見守りについて】

問19：高齢のおひとり暮らしが増え、見守りが必要な人も増えています。高齢者の見守りは誰がやるべきだと思いますか？（あてはまるものに○）



2世代や3世代同居が多いこともあり、「家族親族」が最も多いのですが、素晴らしいことに多くの方が「地域住民みんなで見守るべき」と回答しました。地域全体で見守れる体制も整えることで、より安心して暮らせる豊岡東地区になりそうです。

【分析をおこなった里山くらしLABOより】

豊岡東地区の特徴は、典型的な中山間地域の課題を抱えており、今後、少子高齢化がさらに進むことで、課題感がより強くなるだろう点です。車の移動や農地の維持管理などが困難になり、生活の維持が厳しくなることを不安に思う住民が多く、今後も増えるだろうことが予測されます。一方、2世代、親子、3世代同居がまだ多いため、世代間の課題意識がさほど違わないので、地域活動の必要性の理解が進むことで、変化は起きやすいように思います。住民ニーズと現在の地域活動の内容を再確認し、軌道修正をする必要がありそうです。地域を変えることができるのは、その地域に暮らす住民だけです。行政でも、外部支援者でもありません。今回のアンケートが豊岡東地区の地域づくりの指針を示し、多くの方を巻き込む材料になり、より安心安全に暮らせる地域になりますことを願っています。